盛岡タイムス　2009年（平成21年）9月26日（土曜日）

人生のシナリオを再考

交流分析セミナー

飯田國彦氏が講演

NPO法人福祉支援（東島末起理事長）主催の交流分析セミナーが20日、盛岡市三本柳のふれあいランド岩手で開かれた。日本交流分析協会副理事長の飯田國彦氏（66）が「脚本に気づき、自分らしく生きる」と題し、演者や一般市民ら130人に内容を話した。

福祉病院関係者の「クーポン券」を強調し、参加者に「ふれあいの場を促した。

「人生のシナリオを再考」と題した講演は、広島県出身の飯田氏が、人生を前向きに生きるための支援を行ってきた。

飯田氏は、人生のシナリオに影響を与えるのは幼少時代のストロークに注目する。

「生まれて最初に出会うのは母親。すべてのストロークの始まりは母親。良かった生まれてきたと信じ、自己肯定すると瞬間」と母親とのスキンシップを挙げた。

日本交流分析協会副理事長の飯田國彦氏

母親とのストロークは感情、考え方、時間から行動の仕方、考え方に影響を与える。飯田氏は母親とのシナリオは幼児期に成り立ち、その基本が心の構成やパターンとなる。幼児期のストロークを通じて子供は生きる決断をする。

「人間は幼児期のストロークを通じて子供は生きる決断をする。

「人間は幼児期のストロークを通じて子供は生きる決断をする。

「人間は